

スプレキュア[®]点鼻液 0.15%
をお使いになる方へ
ご使用に際して

病院・医院名

クリニジェン株式会社

東京都中央区日本橋1-16-3

日本橋木村ビル6階

SUP220307



このお薬の作用について

このお薬は脳の視床下部で作られる性腺刺激ホルモン放出ホルモン (GnRH) と似た構造を持つお薬です。継続的な使用により、1～2週間で作用が働きはじめ、卵巢刺激ホルモンや黄体ホルモン、卵巢ホルモンの働きを抑えることにより、性ホルモンの依存する子宮内膜症や子宮筋腫による痛みなどの症状を抑え、和らげます。一方、生殖補助医療などで短期的に使用する場合には、卵巢刺激ホルモンや黄体ホルモンの分泌を促され、意図しない時期の排卵を防止したり、卵胞の発育を促します。

このお薬を使えない方

以下の方はこのお薬を使えません。

- 一妊娠中または妊娠している可能性のある方
- 一授乳中の方
- 一診断のつかない異常性器出血のある方
- 一このお薬の成分または他のGnRH誘導体に過敏症の既往歴のある方

現在使用しているお薬がある場合 (薬局で買ったお薬も含みます)

現在使用している薬剤についてかかりつけの医師、または薬剤師にお知らせください。

次のような方は使用される前にご相談ください

- 一肝臓の悪い方
- 一気分のふさぎ込みやすい方
- 一粘膜下筋腫のある方
- 一血圧の高い方
- 一糖尿病の方
- 一脳血管障害や冠動脈に病気がある方

※現在だけでなく過去にかかったことがある場合でもご相談ください。

使用中にみられる症状

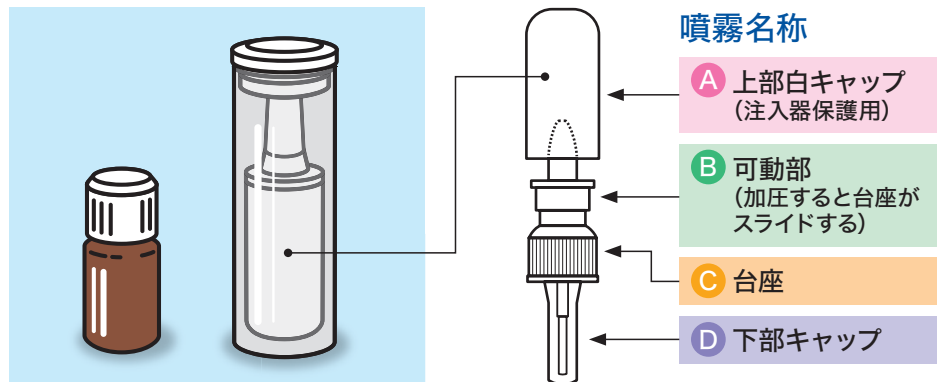
このお薬の使用中に以下のような症状がみられることがあります。あらわれた場合にはかかりつけの医師または薬剤師にご相談ください。

- 一発疹、かゆみがある
- 一ほてり、肩こり、頭痛
- 一胸が苦しい
- 一月経のような出血や少量の出血
- 一食欲がない
- 一疲れやすい
- 一抜け毛がある

継続使用による骨塩量への影響

子宮内膜症や子宮筋腫の治療を目的とした継続使用により、骨塩量の減少がみられることがあります。骨塩量の減少を防ぐために、毎日適度な運動を行い、カルシウムの豊富な食事を摂るように心がけてください。

また長期間 (6か月以上) 使用する場合には可能な限り、骨塩量の検査を受けましょう。



噴霧名称

A 上部白キャップ
(注入器保護用)

B 可動部
(加圧すると台座が
スライドする)

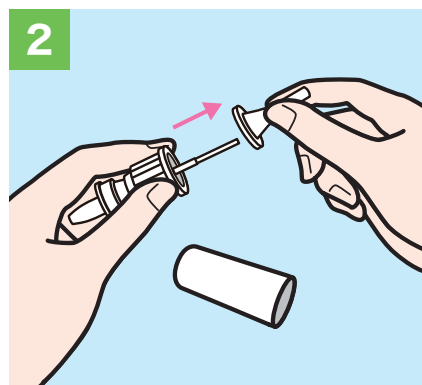
C 台座

D 下部キャップ



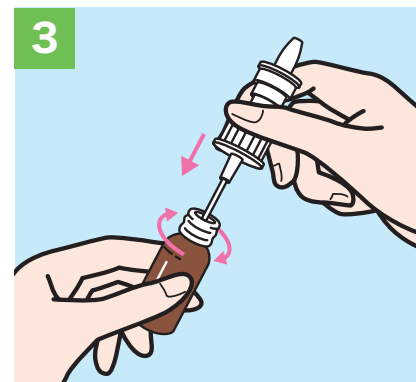
1

噴霧器の入ったケースから噴霧器を取り出します（プラスチックケースは保管用としてご使用ください。）



2

噴霧器の **上部白キャップ A** をはずし、**台座 C** をしっかりおさえて **下部キャップ D** をはずします。 **下部キャップ** はずすててください。



3

薬液瓶のふたを取り、噴霧器を取り付けます。

薬液がもれないようにしっかりと締めてください。

注

装着が不十分な場合、薬液が漏れてハンドバッグや衣類などを汚す原因になります。使用の都度しっかりと閉まっているかどうか確認をしてください。

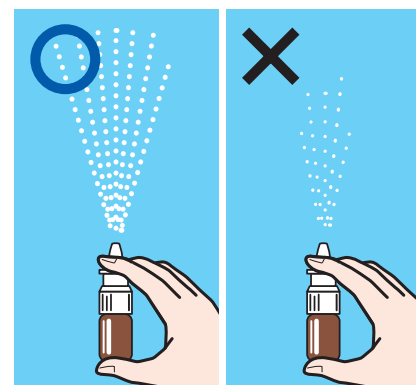
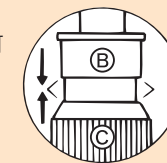


4

図のように指で支えて、**可動部 B** がカチッと音がし、止まるまで強く押し、この操作を数回繰り返して薬液が霧状に噴霧されることを確認してください。

注

薬液が出ない場合、無理に可動部を押さないでください。装着が破損するおそれがあります。



左/正しく噴霧されている状態
右/うまく噴霧されていない状態

正しく噴霧されていれば、準備は完了です。

次のことをチェックしましょう。

お薬は必ず医師の指定した日に使用してください

子宮内膜症、子宮筋腫の治療に使用される場合は、医師の指定した日に必ず使用を開始してください。生殖補助医療で使用される場合は、医師の指定した日・時刻を守って使用してください。

噴霧器の台座の緩みはないですか



噴霧器の台座のネジがゆるんでいると正しく噴霧されません。しっかり閉まっていることを確認してください。

注

装着が不十分な場合、薬液がもれてハンドバッグや衣類などを汚す原因になります。

噴霧は医師に従って行ってください

子宮内膜症、子宮筋腫の場合：1日3回（朝・昼・晩）*、1回あたり左右の鼻腔にそれぞれ1噴霧ずつ使用してください。

生殖補助医療で使用する場合：医師の指示に従って使用してください。

*噴霧の際はカチッと音がしたのち、止まるまで強く押ししてください。

左



右



*中枢性思春期早発症の場合は1日3～6回

（子宮内膜症・子宮筋腫・中枢性思春期早発症で使用される場合）

噴霧したらシールにチェックをいれて確認しましょう

薬剤に添付されているチェック用のシールをキャップの外側に貼り、日付を書き入れ、噴霧をした都度、チェックをいれましょう。

使用期間： 月 日 ～ 月 日

噴霧時	使用日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
朝															
昼															
晩															
(就寝前)															

キャップを取りはずす際は、矢印の方向に回しながらはましてください。
(噴霧器部分のゆるみによる薬液の漏れを防ぎます。)

↓
ここから測ってご使用下さい。

★正しく安全にご使用いただくために、
使用時に忘れずにチェックして下さい。

- 噴霧回数は通常、1回あたり左右の鼻腔内に各々1噴霧ずつを1日3回です。
- 噴霧回数・噴霧時については、先生の指示に従って下さい。
- 1日3回、14日間使用しても薬液が少量残りますが、残りの薬液の使用については、先生にご相談下さい。

噴霧器装着後
キャップの外側に貼付してご使用下さい。

0212・D0342801

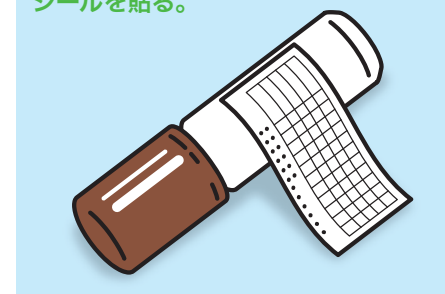
薬剤に添付されているチェック用シール

注

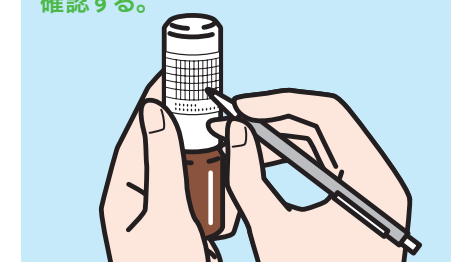
昼間に仕事をもっているなどの理由で、昼の使用が難しい場合は…朝、晩、就寝前の1日3回使用してください。

1日3回、14日使用すると、瓶のそこに薬液が少し残りますが、この残量の使用については医師にご相談ください。

シールを貼る。



噴霧したらシールにチェックを入れて確認する。



- 使用の都度、噴霧器が薬液瓶に固定され、しっかりとまっているかどうか確認してください。
- 使用に際して不都合な点がありましたら、医師または薬剤師にご相談ください。

毎日規則的に鼻腔内にスプレーするお薬です。

1



鼻をかみます。

使用前に鼻をかみ、鼻腔のとおりをよくしてください。

2



噴霧器に鼻腔をいれて噴霧します

- 左の鼻腔にいれて1回噴霧
- 右の鼻腔にいれて1回噴霧

やや下を向き、鼻腔に噴霧を奥まで垂直にいれ、鼻から息を吸い込みながら、可動部がカチッと音がし、止まるまで一気に噴霧します。すみやかに頭を軽く後ろに傾け、薬剤が鼻の奥まで広く行き渡るよう数十秒間、鼻から静かに呼吸してください。

↓ 左右の鼻腔に1回ずつ噴霧後すみやかに頭を後ろに傾ける



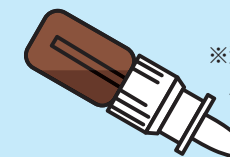
※噴霧器の入れ方が浅いと薬液が漏れ落ちますので奥までしっかりいれて正しく噴霧吸入してください。

※薬液が多少漏れた場合は鼻をかんだりせず軽くふきとるだけで、2回噴霧する必要はありません。

※薬液がのどに入り込んでしまった場合、苦みはありますが、飲み込んででも問題はありません。



噴霧器をいれたとき、上を向くと噴霧されません。

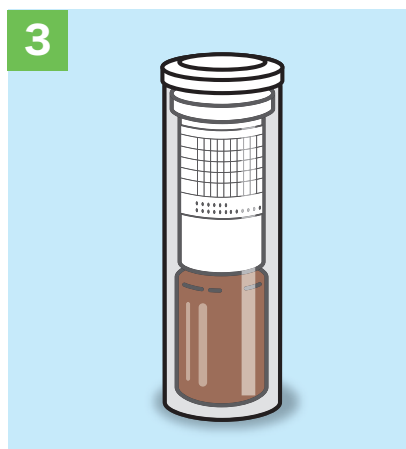


※液吸入パイプの先端が薬液に届かなくなり、噴霧されません。



噴霧器の入れ方が浅いと薬液が漏れ落ちます。

3



使用後はケースにいれて保管します

点鼻後は噴霧器をティッシュなどでふきとり、清潔に保つようしてください。使用後は噴霧器が薬液瓶に固定され、しっかりとしまっていることを確認の上、ケースにいれて保管ください。

注

直射日光は避け、室温で保管してください。小児の手の届かないところに保管してください。

●使用上の注意点：噴霧の際に上部白キャップをひねりながらはずすと、徐々に噴霧器がゆるんでくる場合があります。上部白キャップを外した時には、必ず噴霧器が薬液瓶にしっかりと固定されていることを確認してください。

子宮内膜症・子宮筋腫・中枢性思春期早発症で使用する患者様へ

投与スケジュール

子宮内膜症

投与開始日 : 年 月 日 ()

投与終了予定日 : 年 月 日 ()

噴霧タイミング : 朝 昼 晩 就寝前
(○で囲んでください)

子宮筋腫

投与開始日 : 年 月 日 ()

投与終了予定日 : 年 月 日 ()

噴霧タイミング : 朝 昼 晩 就寝前
(○で囲んでください)

中枢性思春期早発症

投与開始日 : 年 月 日 ()

投与終了予定日 : 年 月 日 ()

噴霧タイミング

(1回目) :

(2回目) :

(3回目) :

(4回目) :

(5回目) :

(6回目) :

生殖補助医療で使用する患者様へ

採卵予定日 : 年 月 日 () : ~

※ 時 分迄にはご来院ください

投与スケジュール

(1回目) : 月 日 () 時 分

(2回目) : 月 日 () 時 分

(3回目) : 月 日 () 時 分

(4回目) : 月 日 () 時 分

噴霧方法

誤って多く使用した場合、使い忘れた場合

すぐかかりつけの医師または薬剤師にご相談ください。